第4期中期目標期間（令和4年度）実績報告

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
（1）入学者の確保 ①－1 ・福井県下の中学校、滋賀県・石川県の入試実績のある中学校には、在学生及び卒業生の近況報告をし、本校の現状を説明することで、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。さらに、本校の魅力を紹介したマンガを配布、HPに掲載する。	（1）入学者の確保 ①－1 ・4月から5月にかけて、次年度入試について、福井県内中学校63校を訪問し、説明と理解を求めた。 ・6月下旬から7月にかけて、福井県：70校、滋賀県：40校、石川県：18校の中学校訪問を行い、入試について、在校生、卒業生の近況、本校の現状を説明した。このとき、マンガを中学1、2年生の教室に置いていただく依頼をした。（マンガは、1,088部配布した）
①－2 ・中学生（女子中学生を含む）及び保護者、中学校教員等を対象としたオープンキャンパスを9月に2日間開催する。さらに10月～11月に中学生（女子中学生を含む）及び保護者、中学校教員等を対象とした入試説明会を開催する。各中学校の高校説明会等に積極的に参加する。 ・新しく作り直した本校カレッジガイド及び学校紹介リーフレットを福井県・滋賀県の全中学校に配布、さらに、石川県及び京都府の一部の中学校にも配布し、加えて地元メディア、新聞等を通じての広報活動を行う。	①－2 ・9月23, 24日にキャンパスツアー2022を開催し、中学生が366名、その保護者が375名参加した。 ・入試説明会を本校、福井県各所、滋賀県、石川県において開催し、参加者は、中学生222名、保護者244名、教員49名であった。高校説明会には、13校の中学校に参加した。 ・カレッジガイドを福井県：1,334部、滋賀県：286部、石川県：95部、その他の県43部、学校紹介リーフレットを福井県：9,263部、滋賀県：5,707部、石川県：2,925部、その他の県43部配布（送付）した。さらに、カレッジガイドとマンガについては、地元図書館37箇所に配布した。
②－1 ・本校オープンキャンパスなどで、説明役の学生に女子学生を積極的に登用し、中学生（女子中学生を含む）その保護者に優秀な女子学生の存在を知らしめ、広報する。 ・女子中学生が主人公で、本校で大人へと成長してくマンガを使って本校の魅力をわかりやすく伝える。	②－1 ・9月23、24日に開催したキャンパスツアー2022において、延べ56名の女子学生が各学科実験補助学生、交流コーナーの学生、プラカード学生として参加した。 ・マンガを中学校、各図書館等に計1,940部配布した。
②－2 ・入試説明会の折りに、本校に在学している留学生の活躍の様子を説明する。	②－2 ・日本への留学を希望している学生に説明をする機会がなかった。
③ ・Web出願に対応する。 ・多様な入学者を確保するための入試方法について検討する。	③ ・インターネット出願について、出願の流れを「入試説明会」において説明した。また、インターネット出願についての説明書を入試説明会にて配布し、HPにも公開した。 ・教務主事団を中心に入試方法について模索、検討した。これは継続して検討することになった。
（2）教育課程の編成等 ①-1 ・学際カリキュラムに関して検討を加え、新しいカリキュラムを作成する。 ・本校の強み・特色を活かした専攻科充実策については、校内の将来構想に係る委員会での提案を勘案しつつ、関係部会・委員会と検討を重ねる。具体的な専攻科改組案の作成段階に至った際には、法人本部の関係部署と連携をとり、指導助言を受け進める。	（2）教育課程の編成等 ①－1 ・学際カリキュラムについて検討を行い、「数理・データサイエンス入門」を必須科目とし、シラバスの作成をした。次年度も「数理・データサイエンス入門」の内容および他の学際カリキュラムの科目の検討を実施する予定である。 ・本校の強み・特色を活かした専攻科充実策については、校内の将来構想専門部会のほか、外部有識者を交えた未来戦略会議や外部有識者会議の議論を踏まえ、関係部会・委員会と検討を重ねた。9月に行われた外部有識者会議では委員より専攻科と大学（院）との連携実績に関する情報提供があり、これを関係委員会で情報共有した。11月に行われた未来戦略会議では本校からアントレプレナー教育やマスタープランに対して説明を行い、関係委員会で情報共有した。また、これらの内容が「スタートアップ教育環境整備事業」に活かされ、同事業の中で専攻科の科目が大きく関与する枠組みとなっており、結果として専攻科の充実にもつながっている。
①-2 ・社会情勢を見据えながら、大学・大学院との交流機会を設けつつ、連携教育プログラムの構築について精査する。また、学生の課題解決力向上に資することを目指し、インターンシップ及び県内の連携プログラムの実施を通じて地元企業等との共同教育を推進する。これらの実施に際しては、本校卒業生・修了生の参画及び本校実務家教員（含技術職員）を積極的に登用する。 ・本科では、4年生全員参加を前提としてインターンシップの受け入れ先の確保を目指す。専攻科1年生対象インターンシップは必修で、特別研究指導教員が研修先を斡旋する方法を取ることにより、研究に関連した内容や、課題解決型などのキャリア形成に繋がる内容の研修を目指す。 ・インターンシップ中は、研修先で研修日誌のチェックや、コメントをしていただくことにより、研修先と連携した共同教育を行う。また、教員が研修中に研修先を訪問し、実習学生の状況を把握するとともに、求人関連の情報収集を行う。 ・インターンシップ後は、報告書の作成、報告会を実施する。また、専攻科生の報告書は研修先にもチェックしていただく。	①－2 ・コロナ禍に配慮しながら、2年間繰り延べていた専攻科生1年生対象大学院研究室訪問を6月に実施し、参加学生は一人2研究室を体験した。この他、専攻科生全体に対しAI・数理・データサイエンスに対する理解を深めるため、6月に先進校から講師を招き特別講演（実習付き）の機会を設けた。高専と大学との連携教育プログラムについては、第3ブロック専攻科長会議での情報収集に加え、9月に行われた外部有識者会議でも委員から話題が出され情報共有されている。このように前向きな議論での支持を受け引き続き検討している。また、学生の課題解決力向上に資することを目指して実施しているインターンシップや地元企業と連携した共同教育については、今年度はコロナ禍以前レベルで推進している。なお、専攻科の科目については本校実務家教員のほか、10名の外部の実務家を登用している。創造デザイン演習では実務経験のある2名（内1名は本校卒業生）の本校技術職員に3D-CAD及び3Dプリンタの演習を依頼し、内部の教育資源も有効に活用している。 ・夏季休暇中に、本科4年生対象の校外実習、専攻科1年生のインターンシップ（必修）を実施した。ほとんどの学生が校外実習、インターンシップ（以下、研修）に参加することができた。 ・研修中、研修指導者による研修日誌のチェックやコメントをいただき、また、教員が研修先を訪問（または、オンライン面談や電話連絡）・面談をし、研修学生の状況を把握するなど、研修先と連携した共同教育を行なった。その際、求人関連の情報収集を行なった。 ・本科4年生、専攻科1年生ともに報告書の作成をした。報告会を10月に実施した。専攻科生の報告書は研修先にもチェックしていただいた。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
②-1 ・海外の教育機関との交流を推進する。 ・様々なコミュニケーションツールを利用した各種海外研修プログラムの充実を図る。	②－１ ・本校英語版ホームページを最新情報に対応アップデート済み。併せて内容の精査・充実も図った。
②-2 ・混合型学生寮などを積極的に活用し、イングリッシュカフェや交流会などを実施する。	②－２ ・今年度新設された学生寮（国際寮）の竣工披露式にて留学生の発表会が実施された。 ・９月に行われた日本・マレーシア若者リーダー交流in福井に５年機械工学科の学生３名がマレーシアにて研修に参加した。 ・英語の授業の一貫でJICA主催のエッセイコンテストに応募し表彰を受けた。 ・ネイティブ英語講師が担当する授業の中で、英語表現で著名な講師の指導のもとに専攻科生２年全員に自身の特別研究に関する英文アブストラクトを作成させ、冊子を作成・配布した。
③－１ ・高専体育大会やロボコン、プロコン、デザコンなど各種競技・コンテスト、地域と連携したプロジェクトなどへの積極的な参加を奨励する。 ・来年度主管となる全国高専プログラミングコンテスト2023について、準備を進める。 ・継続的に行っている「福井高専キャンパスプロジェクト」の発展場である「福井高専ガリレオコンテスト」を実施することで、企画立案と実践ならびに報告に至る一連の能力の育成を図る。 ・学生の多様な活動に資する場を提供できるよう、校内の環境整備を図る。	③－１ ・少林寺拳法部員1名が、令和4年度福井県高等学校春季少林寺拳法大会兼全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会選考会（5月）で優良賞を獲得し、北信越高等学校総合体育大会（8月）に出場した。 ・水泳部員4名が令和4年度福井県高等学校春季総合体育大会（6月）で入賞し、北信越高等学校総合体育大会（8月）に出場した。 ・第57回北陸地区高等専門学校体育大会（7月）では、女子バドミントン、ハンドボール、水泳、サッカー、陸上競技、卓球、剣道が全国大会出場を決めた。8月に四国で開催された全国高専体育大会では、女子バドミントンが団体優勝、個人とダブルスで3位入賞、陸上では男子走り高跳びで優勝、サッカーでは3位入賞、水泳では、メドレーリレーや自由形、平泳ぎなど4部門で優勝を果たした。 ・アマチュア無線研究会が、第33回全国高校アマ無線コンテストの「マルチオペレータ・7メガヘルツ」部門で優勝（5連覇）を果たした。 ・第33回全国高等専門学校プログラミングコンテストは、10月15日から16日にかけて、群馬県高崎市のGメッセ群馬で開催された。福井高専からは4チームが参加し、課題部門では2チームがそれぞれ特別賞とNICT賞、敢闘賞とアバナード企業賞を受賞、自由部門では1チームが敢闘賞とチームラボ企業賞を受賞した。なお、来年度は福井高専主管で開催されるため、14日から16日にかけて視察を行っている。また10月に、会場予定のサンドーム福井にて、第３４回全国高等専門学校プログラミングコンテスト実行委員会第１回チーフミーティングを開催した。 ・アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト2022東海北陸地区大会は、10月23日(日)に三重県鈴鹿市のAGF鈴鹿体育館で開催された。10キャンパスから全20チームが出場した。福井高専からは2チームが出場したが、残念ながら入賞は逃した。 ・全国高専デザインコンペティションは12月10日から11日にかけて、福岡県大牟田文化会館で開催された。創造デザイン部門において、石川高専との合同チームで審査員特別賞を受賞した。 ・インフラマネジメントテクノロジーコンテスト（インフラテクコン）では、グランプリを受賞した。 ・第４２回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会の将棋部門A級で優勝。また中部・近畿地区高専将棋大会においても、A級で優勝と4位入賞を果たした。 ・第1回福井高専ガリレオコンテストが開催され、全6件、総額904.793円分が採択された。12月に報告会を実施し、審査の結果、最優秀賞1件、優秀賞1件を表彰した。
③－２ ・学生のボランティア活動を推奨するため、活動機会の情報を提供する。毎年実施しているクリーン大作戦や、2年間実施できていない保育ボランティアなどの活動を継続的に奨励する。 ・学生による顕著なボランティア活動に対する表彰制度を積極的に周知する。	③－２ ・10月20日(木)放課後より、クリーン大作戦を実施した。2コースに限定し、鯖江駅近辺までの通学路と、学校周辺のゴミ拾いを、学生会の厚生部門１０名と教員のみで行った。 ・保育ボランティアは、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、実施されないこととなった。
③-3 ・トビタテ！留学JAPANへの学生の応募を促す。 ・ISTS２０２２への学生の応募を促す。	③－３ ・トビタテ高校生コースへ２年生１名が応募し、採択を受けた。
（3）多様かつ優れた教員の確保 ① ・専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。	（3）多様かつ優れた教員の確保 ① ・専門科目担当教員にかかる教員公募要領では「博士の学位を有する者」という項目を必ず掲げている（着任日までに取得できなかった場合は，任期付となることを併記）。
② ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の利用を働きかける。	② ・昨年度に引き続き学内の教員人事に関する委員会でクロスアポイントメント制度の説明を実施するとともに、各学科、一般科目教室に対し希望の有無の確認を実施したが、令和4年度中及び令和5年度初めにおける制度活用の希望はなかった。クロスアポイントメント制度の活用は教員人員枠に関係することから、人員枠等を十分に確認しながら、令和5年度も制度活用の働きかけを継続し、実際の導入につなげたい。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
③ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 ・また、女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。	③ ・高専機構内の交流として、同居支援プログラムにより令和5年度に他高専から教授1名を受け入れることが確定した。 ・当初は図書館2階の女子便所の和式トイレ（1か所）を洋式トイレに改修工事の予定であったが、女子便所内のトイレブースの増設改修を優先的に実施した。
④ ・外国語の授業では、ネイティブな教員をさらに増やすことを検討する。	④ ・外国語の授業においてネイティブの教員を配置している。
⑤ ・高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の経験者による報告会等を通して、人事交流情報について周知するとともに、積極参加を促し幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供する。	⑤ ・高専と技科大間の人事交流については、本部人事課からの通知後、すみやかに学内周知を実施している。 ・高専機構内の交流として、同居支援プログラムにより令和5年度に他高専から教授1名を受け入れることが確定した。【再掲】
⑥ ・本校教職員が講師となるFD講演会を開催し、教職員の資質向上に対するモチベーションの涵養を図る。 ・外部講師を招へいしたFD講演会やFD研修会を企画開催する。 ・新任教員や昇任した教員を対象とする研修プログラムを企画実施する。 ・全国高専フォーラムへの積極的な参加を促す。 ・アクティブラーニング等に関する研修会や研究会に参加し、ブロックや地区の高専との情報共有を図る。	⑥ ・11/22（火）に本校教職員が講師となるFD講演会を実施し、教職員の資質向上に対するモチベーションの涵養を図る予定。 ・6/29（水）に相談室と共催で、FD講演会「思春期・青年期の理解―心身の変化を受け止め、受け入れる」を実施した。 ・新任教員・昇任教員を対象とする研修プログラムを企画実施した。 ・全国高専フォーラムへ2名の教員がポスター発表を行い、その他の教員についても積極的にオンライン参加を促した。 ・3/23に開催された第3ブロックAL推進研究会に参加し、ブロックや地区の高専との情報共有を図った。
⑦ ・教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員表彰対象者として推薦する。また、非常勤職員を含めた全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。	⑦ ・機構本部主導の教員顕彰では、厳正な学内審査のもと、職務に精励し功績が顕著な者を対象者として推薦した。また、令和4年度国立高等専門学校教職員表彰では、本校から推薦の業務改善グループが最高賞である理事長賞を受賞した。その他、校内でも校長による表彰制度を設けており、令和4年度についても、教育、課外活動指導、研究、地域連携、事務改善等幅広い職員を表彰した。
（4）教育の質の向上及び改善 ① ・キャリア教育の一環の入学前教育、初年次教育として、「自己紹介」「高専で学びたいこと」、ようこそ1年生、キャリア説明会、学科再選択制度説明会等を実施する。 ・学習支援室について、組織的に成績不振の学生のケアを実施する。 以下、学科、教科、専攻科等ごとに取組を示す。 【機械工学科】 ・アドミッションポリシーについて記載内容を検討する。 ・達成度の自己スキル評価の実施を継続し、学生の学習に対する目的意識の向上を図るとともに、必要に応じて改善を検討する。 ・機械工学実験の実質的な成果の向上のため、令和元年度に内容と実施方法を変更したが、モデルコアカリキュラムへの合致を精査し、さらに改善を進めて実施する。 ・グループワークや課題解決型学習、アクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に実施し、学年進行に伴う効果的な科目配置や実施内容についての検討を重ねてきた。引き続き、学生が主体的に取り組むものづくり教育を推進する。 ・学科内における教育改善に資するファカルティ・ディベロップメント活動の推進、及びそれらの活動内容の収集と情報の共有を図る。	（4）教育の質の向上及び改善 ① ・キャリア教育の一環の入学前教育、初年次教育として、「自己紹介」「高専で学びたいこと」、ようこそ1年生、キャリア説明会、学科再選択制度説明会等を実施した。 ・学習支援室について、組織的に成績不振の学生のケアを実施した。 ＜数学＞　7/6：受講者数30名、TA6名、担当教員数4名　7/13：受講者数26名、TA14名、担当教員数1名 7/27：受講者数24名、TA1名、担当教員数3名　10/19：受講者数41名、TA6名、担当教員数4名 11/2：受講者数38名、TA7名、担当教員数2名　11/16：受講者数23名、TA5名、担当教員数3名 11/23：受講者数35名、TA5名、担当教員数3名　12/21：受講者数28名、TA0名、担当教員数2名 1/18：受講者数23名、TA3名、担当教員数4名　2/1：受講者数23名、TA2名、担当教員数3名 ＜物理＞　6/30：受講者数48名、担当教員数1名　7/7：受講者数43名、担当教員数1名　7/15：受講者数27名、担当教員数1名 7/21：受講者数36名、担当教員数1名　7/28：受講者数46名、担当教員数1名　10/13：受講者数29名、担当教員数1名 10/20：受講者数18名、担当教員数1名　11/17：受講者数10名、担当教員数1名　1/19：受講者数20名、担当教員数1名 ＜化学・専門・課題等＞　7/19：受講者数12名、TA16名、担当教員数8名　7/26：受講者数12名、TA6名、担当教員数3名 11/14：受講者数20名、TA10名、担当教員数8名　11/15：受講者数19名、TA8名、担当教員数4名 1/30：受講者数15名、TA5名、担当教員数7名　1/31：受講者数14名、TA6名、担当教員数8名 以下、学科、教科、専攻科等ごとに取組を示す。 【機械工学科】 ・ アドミッションポリシーの記載内容についてワーキングループ内で検討し、変更の必要な使途の原案を学科会議にて審議し、合意を得た。 ・ 実験・実習系MCC対応カリキュラムが学年進行に伴い順次導入を進め、今年度末で第5学年への導入を完了した。1年～5年生の機械工作実習、機械工学実験において自己スキル評価を実施した。 ・ 1年時の“専門基礎（ものづくり科学）、2年時のC言語基礎、3年時のC言語応用、メカトロニクス実習、4年時の知能機械演習、5年時の卒業研究においてグループワーク、PBL型学習、アクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に実施した。 ・ 実習工場の改修に係る変則カリキュラムを実施した。実習、演習の内容を精査し、課題解決型カリキュラム、ならびに体験型カリキュラムとして従来カリキュラムに比して偏りが無いよう配慮した。 ・支援を必要とする学生からの申し出を受け、特別支援チームを発足させ、支援内容や程度を協議した。また決定した支援内容を学科会議などで共有を図り、学科としてのサポート体制を確立した。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
【電気電子工学科】 ・Webシラバスへ記載したルーブリックの確認及び評価方法については、継続的に検討する。 ・令和4年度に、5年次まで対象とした実験スキル評価シートを用いてモデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の到達度評価を実施する。 ・電気電子工学科で実施しているアクティブラーニングの実施状況について、継続的に確認し、情報共有を行う。 ・CBT（Computer-Based Testing）を用いた学習到達度の把握を継続的に行う。 ・学習状況調査及び卒業時の満足度調査を継続的に実施する。 ・学科内のFD活動を推進するために電気電子工学科会議で継続的に検討し、学科内のFD活動内容の収集と情報共有を行う。	【電気電子工学科】 ・Webシラバスへ記載したルーブリックの確認及び評価方法については、3月の電気電子工学科会議にて検討した。 ・5年次まで対象とした実験スキル評価シートによる結果を確認したところ、一部の学生においては評価シートの評価が低い場合があるがほとんどの学生は、レベル3を満たしており、モデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の到達度評価としては問題ないことを10月の電気電子工学科会議にて確認した。 ・電気電子工学科で実施しているアクティブラーニングの実施状況について、11月の電気電子工学科会議にて確認し、情報共有を行った。 ・CBT（Computer-Based Testing）を用いた学習到達度の把握を計測工学分野において冬休み期間に実施予定であり、その結果については3月の電気電子工学科会議にて情報共有を行った。 ・学習状況調査及び卒業時の満足度調査を継続的に実施し、3月の電気電子工学科会議にて情報共有を行い、その結果について検討した。 ・学科内のFD活動を推進するために、4月電気電子工学科会議にて、学科内のFD活動内容の収集と情報共有を行うことを依頼し、3月の電気電子工学科会議にて集約した。
【電子情報工学科】 ・学外のICT関連企業の技術者と協力し、地域や産業界が直面する課題解決を目指したPBL型カリキュラムの取組みを継続する。また、その成果を様々なコンテストや発表会で発表していく。 ・低学年でのBYODパソコンの活用に関する検討や、BYODを活用したアクティブラーニングへの取り組みの検討を行うと共に、ネットワークを活用した実験・研究環境の整備を行っていく。 ・CBTの作問を通してモデルコアカリキュラムとの整合性について確認を行い、作問の結果は全国高専と共有するとともに、これらを用いた学習到達度の把握を目指す。 ・情報系科目として新設した「情報メディア工学」の授業の実施と、その学生アンケートなどを通して学生の満足度などの調査を行う。	【電子情報工学科】 ・学外ICT技術者に協力してもらいながら、4年創造工学演習を実施し、この成果を高専プロコンの課題・自由部門に応募し、10/15,16のプロコン本選では3チームが特別賞や企業賞を受賞することができた。またこの成果を、2022年10月20日,21日の北陸地区ITフォーラム、2022年12月14日のJointフォーラム2022、2023年3月6日NICT起業家甲子園で展示・発表を行った。 ・低学年でのBYODパソコンとIoT技術の連携を検討すべく高専におけるSociety5.0 型未来技術人財育成事業COMPASS5.0におけるIoT部門での実験機材の導入を行った。今後はこれらの機材を活用した実験や研究活用を目指したい。 ・CBTについて、R4年度の情報系の作問担当にて60問が無事に採用された。作問を通してMCCとの整合性を確認できた。また学習到達度の把握としてCBTにて計算機工学、ソフトウェアについて冬休み期間中に4年学生が履修し、計算機工学で92%が受験し平均点57点、ソフトウェアで100%が受験し平均点66点であった。 情報系の通年科目として新設した「情報メディア工学」の授業を第4学年に向けて開講し、前期はネットワーク,情報セキュリティ、後期は画像や音声処理など人工知能に関連した講義を終えた。授業アンケートでも81.3ポイントと高い評価を受けている。卒業研究のテーマを考える上でこれらの知識を第4学年に教示できた事で今後ディープテックなシステム開発をテーマとした卒業研究テーマが増える事が期待できる。
【物質工学科】 ・社会ニーズに即した学科が目指す「育成する学生像」を検討し、教育内容の充実と豊富化及び教育指導の質的向上、特に卒業研究指導の見直しを図る。 ・学科教員の教育研究活動の充実と活性化を図るとともに、研究内容・方法の高度化と研究環境の整備・改善及び外部資金獲得に向けた産官学連携共同研究や連携教育プロジェクトを推進する。 ・学科の魅力向上と改善及び具体的かつ効果的な広報活動・情報発信等、重要課題である学科入試倍率の回復・維持のためのより効率的な具体的方策を検討し、重点的に実施する。	【物質工学科】 ・教育の質的向上、特に「卒業研究指導」の改善に繋げるために、学科教員の研究力の高度化と科研費等外部資金獲得に向けた「産官学連携共同研究」や「連携教育プロジェクト」として、国際共同研究「ナノ粒子拡散の画像解析に基づいたPCR不要な超高感度DNA検出技術の確立」（福井大学・台湾成功大学）、及び共同研究「ラン藻を用いた有用物質生産に関する研究」「動物細胞の簡易培養法の確立」（金沢大学）、共同研究「大腸菌における有用物質生産に適した鉄硫黄タンパク質発現系の構築」「酵母シグナル伝達を用いたEGFRシグナルを阻害する分子スクリーニングシステムの構築」（神戸大学）、共同研究「河川流域におけるプラスチック微細片の生成・流出機構の解明とモデル化」（愛媛大学）、共同研究「新規光有機触媒を用いた光脱炭酸反応の開発」（福井大学）、共同研究「レタス水耕栽培における乳酸菌資材投与の有効性」（ベルテクス(株)）、共同研究「マルカワ味噌の抗酸化能評価試験」（マルカワみそ(株)）、共同研究「糸への新たな機能付与」（協和テキスタイル(株)）、共同研究「新規多官能チオールの活用」（旭化学工業(株)）、ならびに学内共同研究「がんQOL向上を達成するレーザートリガー連鎖・新PDTシステムの開発」「エピシェネティクス手法を用いた筋機能関連遺伝子解析」等、教育研究活動の活性化を推進した。 ・学科の魅力向上と効果的な広報活動・情報発信、特に入試倍率の回復維持のための具体的方策として、学科パンフレットの刷新（6月）及び学科紹介ビデオ動画の作成（オープンキャンパス配信・ホームページ公開、9月）、ならびに公開講座「超低温の世界～液体窒素を使った実験～」（7月17日於福井高専、小中学生16名・保護者4名参加）、出前授業「理科実験講座」及び（公財）中谷医工計測技術振興財団助成「ふくい自学ノートコンテスト」（6月22日・23日於福井市立明新小学校、6年生167名参加）、出前授業「親子で科学実験室（ふくいライフアカデミー共催講座）」（7月30日於勝山市教育会館、小学生30名・保護者21名参加）、出前授業「科学実験」（8月24日於越前市立国高保育園、小学1～3年生39名参加）、出前授業「科学者になってみよう！（福井高専連携主催事業）」（10月1日於福井県立鯖江青年の家、小学4～6年生18名・保護者12名参加）、出前授業「親子理科実験体験」（11月6日於福井市木田公民館、福井市立木田小学校5年生33名・保護者30名参加）等を重点的に実施した。今年度の学科入試倍率は1.23倍であり、前年度（0.90倍）を上回る実績と入学志願者確保に至った。
【環境都市工学科】 ・環境都市工学科の教育，研究，社会貢献に関する将来構想と魅力向上策を立案するワーキンググループ（WG）の活動を継続し，教育の質の向上と改善のための実施内容を検討する。 ・3年次以降のBYODの環境を利用し，座学における演習や実験実習で得られたデータ整理にPCを活用することで学生のスキルアップを図る。 ・学生の資格取得に向けたフォローアップを行う。 ・卒業研究において，地域企業や行政が直面する課題解決を目指したテーマに取り組む。	【環境都市工学科】 ・WGからの提案をもとに学科教員全員がふくい建設技術フェアに出展し，学科のアクティビティを紹介した。また，キャンパスツアーの動画を撮影しYouTube動画をHP上にアップした。また，SNS（Twitter）も利用し，学科の広報を積極的に行った。その結果，R5年度推薦選抜では5学科の中で志願者が1番多かった。 ・3学年からBYODを始めた。実験実習のデータ整理や設計製図の図面作成に学生自身のPCを活用させた。また，学科の予算を用いて環境都市工学科棟1階や2階にアクセスポイントを設置し，ネットワーク環境を充実させた。 ・企業と連携した建築士受験講座では，合計12名の学生が講座を受講した。また，昨年度の講座受講者からは，1級建築士の学科試験合格者が1名（製図は不調），2級の合格者が2名となった。また，技術士一次試験は，2年生から1名，3年生から2名，4年生から1名，5年生から10名の合格者が出た。5年生の選択科目として特別学修1単位を整備し，単位振替の制度をスタートさせた。 ・卒業研究発表会では，33件中15件が福井県内をフィールドとした発表であった。地域企業や行政が直面する問題を解決するテーマに取り組むことができた。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
【数学】 ・授業において既に導入しているICT活用およびグループ学習などを継続的に実践し、基礎学力の定着と主体的な学びを促す。 ・学力不振の学生に対し、補習授業などを行うなどの、支援を行う。 ・学生自身が主体的に学ぶ習慣を身に着けさせるため、Web教材や授業動画などの整備などにより、より主体的に学びやすい学習環境を整える。 ・数学検定の受検を推奨することにより、学生の数学に対する興味関心を高めるよう努める。	【数学】 ・ICT活用(BYODの活用を含む)および、授業におけるグループ学習活動の実践は継続的に行っており、主体的な学びの促進が継続されている。特に、授業時間内での一部オンデマンド教材の使用を、5クラスで行っており、基礎学力の向上に務めた。 ・学習支援のために、1年生および2年生の成績不良者及び希望者(平均30名程度)の補習を、年間年間を通して10回実施した。 ・数学検定(団体受験)を、7月9日と1月28日に、本校で実施し、希望した延べ9名（準1級1名、2級延べ5名、準2級3名）が受験した。結果、　2級合格1名、準2級合格3名、2級1次合格が2名であった。
【物理】【地学】 （物理系） ・低学年成績不振者向けの補習を継続する。受け入れ人数の増加を検討する。 ・3年生は夏季休業中の総復習を行い、CBTにより学習の理解度を検証する。 ・4年生実験の実験室配置を見直し、より安全に配慮した実験を可能にする。 （地学系） ・福井県の災害特性（導入）を、まとめのところで取り扱う。	【物理】【地学】 （物理系） ・低学年成績不振者向けの補習を11回実施した。昨年度より対象者を拡大し、のべ290名が参加した。定期テストにおける平均点との差において、約6点の成績向上が見られた。 ・3年生は夏季休業中の総復習を行い、これまで学んだ知識の整理を行うとともに、CBTの準備を行った。 ・4年生応用物理IIの実験配置を見直した。2件の実験設備を本館の基礎物理実験室へ移動しスペースを確保し、より安全な実験を実施することができるようになった。 （地学系） ・福井県の災害特性として南越前町の豪雨やJCPZによる降雪を取り上げ、地球科学における位置づけを行った。
【化学】【生物】 ・化学では今年度も授業中、問題集の問題をさせて、その日の授業内容を理解させるようにする。また、長期の休み後と、教科書の各章終了後は課題の提出を実施し、学力レベルを維持する努力をする。生物では、より興味も持たせるよう映像を使用した講義を取り入れ、さらに、内容の区切りごとに小テストを実施することで内容の定着を促す。	【化学】【生物】 （化学系） ・周りの学生と相談する時間を設けることで、自分の理解度が分かり、内容をより定着させることができた。教科書では物足りない学生については、これまでの授業で理解できるが教科書には載っていないレベルの事柄について話した。一方で、ついていくのに精一杯かつ試験の点数が振るわない学生には、別途プリント等の課題を設けた。 （生物系） ・課題であった講義に映像を使うことについて、自分で絵を描くよりも分かりやすい図を動画で一部利用する事ができた。また、教材探索を実施した結果、学生に生物に関して興味を持たす事が出来る可能性のあるものを見つけたため、次年度で利用していきたい。
【体育】 ・1～3学年の体育実技では、今年度からスポーツ科学演習を取り入れる。演習では、各学年ごとにスポーツや健康に関する知識に応じた課題を与え、学生自身が主体的に課題に取り組むように促す。 ・1学年の保健や4年生のショートレクチャー（生活習慣病予防）では、学習内容を身近な話題と関連付け、実践（行動）につながるような理解を深めるとともに、自己の健康・体力課題の抽出とその対策を考察するレポートを通じて、課題解決のための主体的な学びを促す。	【体育】 ・1～3年生に対して今年度から新たに実施した演習課題では、　自身の身体バランス、歩行及び走行能力を図表作成を通して、客観的に評価することができていた。　また、4年生の生涯スポーツ実習の年2回の課題を通して、学生たちが健康課題に対する意識が高くなった。
【国語】 ・キャリア教育的取り組みの一環で、2年生の「手紙の書き方体験授業」、4年生の自己PR文や志望動機文を作成する授業を継続する。 ・弁論大会などの学校行事、校友会誌の編集・発行にあたって、学生への指導を含めた支援を継続する。 ・授業では、学生が主体となって臨める環境作りを行う。発表や議論、グループワークを通して、語彙力や表現力を育成する。 ・5年生の選択必修科目の授業は、日本語表現演習と日本文学論を開講する。日本語表現演習ではプレゼンテーションや議論、日本文学論では文芸作品の鑑賞により、それぞれ言語運用能力を伸ばす授業を行う。	【国語】 ・2年生の「手紙の書き方体験授業」を7月に実施、4年生の自己PR文や志望動機文を作成する授業を4月から5月にかけて実施した。4・5年生の希望に応じて、就職面接や大学推薦に使用する作文の添削も行った。 ・本年度の弁論大会は中止となったものの、学生の言語運用能力向上のため、2・3年生で後期にディベートの授業を行った。校友会誌の発行にあたり、国語科教員3名全員が作文の選定にあたった。また、今年度から校友会誌に新たに川柳の推薦枠が設置され、俳句と川柳の違いについても国語科で説明を加えた。 ・1年生では構成・表現・客観性の観点から、随想と論説文のどちらにあたるか分析するグループワークを行った。2年生では詩の解釈に関する意見文を書かせたほか、古文の登場人物について意見を出させてまとめさせるグループワークを行った。3年生では文章読解後、グループで意見交換を行った。4年生ではプレゼンテーションを行った。これらの活動を通して、学生の語彙力や表現力を育成した。 ・日本語表現演習では、ディスカッションやプレゼンテーションなどの活動を通して、自分の考えを正しく聞き手に伝える能力を育成した。日本文学論では、古文をもとに書かれた近代小説をテキストとし、原作と比較することで、作者の創意工夫を読みとり、自分の言葉で説明させる授業を行った。
【社会】 ・社会科内各科目のそれぞれの到達目標や学習事項、レベル設定、教科書に関する教員間の議論を継続し、授業実践にあたっての課題を精査する。特に本年度は新しいカリキュラムの完成年度であることから、今後の実施に向けた問題点がないかの精査を行う。 ・本年度新たに開講される「工学倫理」の実施状況について各学科などと連絡をとりつつ、授業内容やシラバスの改善を行っていく。	【社会】 ・各科目ともに課題を提出できない学生のフォローを行ない、適切に指導を行なった。 ・工学倫理については大きなトラブルなく初年度の実施を終えることができた。来年度は担当者が変更になることもあり、より効果的な教育内容、学科との連繋について検討したい。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
【英語】 英語でコミュニケーションをするための基本的な知識の習得と実践的な運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。低学年においては、基礎的な文法・表現学習と理工英語、身近な話題を中心としたコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。高学年、専攻科においては、TOEIC等の資格試験の学習を含め、より実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。また、英語学習や海外に対する興味を喚起するための支援を積極的に行う。 【専攻科】 ・昨年度改正した専攻科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーならびに単位互換に関する規定の周知徹底を図りながら、本科と協調して、入試体制の再整備及び教学マネジメント体制の整備を進める。 【創造教育開発センター】 ・Webシラバス、ルーブリックの有効活用および、アクティブラーニング、遠隔授業、ICT教育、BYOD実施などの教育実践に関して、教員への情報提供と環境整備を行う。 ・学際領域カリキュラムの見直しを図る。 ・新しいカリキュラム（工学倫理および情報教育）の実施と検証を図る。 ・CBTの実施。CBTの利活用（授業や宿題での利用）の検討。 ・授業評価アンケートのフィードバックと、教育改善へつなぐ方法の検討。 ・FD研修会の実施。 ・「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しを行う。 ・創造教育開発センターとしての、学習支援の関わり方を検討。 ・PROGテストを二つの学年で継続的に実施することにより、学生に特性を理解させる共に、キャリア支援に繋げる。 ・教学アセスメント実施方針に示された創造教育開発センターに関わる各種データの検証方法を検討。	【英語】 ・基本的な英語知識と実践的な運用能力の育成を目的として、以下のことを行った。 1）低学年においては、文法項目の指導と日常的な話題を中心としたコミュニケーション活動、eラーニングなどを行った。高学年においては、プレゼンテーション活動、TOEIC対策演習、eラーニングなど、授業だけでなく授業外での学習にも配慮しながら指導を行った。 2）令和5年度に導入予定のスタディサプリやWebClassの使用について検討し、WebClassで活用する教材の作成・試行を行った。 【専攻科】 昨年度改正した専攻科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及び単位互換に関する規定変更について専攻科関連のウェブサイト及び専攻科ガイダンスを通じて周知徹底を図った。教学アセスメントポリシーについては、本科と併せて関連ウェブサイトで周知されている。入試体制の再整備については10月に関係規則の改正を終えた。 【創造教育開発センター】 ・9/28の工学倫理WG会議において、前期の工学倫理（C科、B科）の授業内容および実施方法について報告があり、特に問題なく実施できたことを確認した。後期については、M科、E科、EI科の3学科で実施した。 ・情報教育については、数理・データサイエンスWG会議にて、実施・検討している。 ・CBTについては、昨年度同様のクラスで実施したが、今後の実施方法およびCBTの利活用（授業や宿題での利用）の検討については創造教育開発センター会議にて行った。 ・授業評価アンケートのフィードバックと、教育改善へつなぐ方法の検討については、創造教育開発センター会議にて実施した。 ・6/29, 11/22, 11/30, 12/12, 3/14, 3/15にFD研修会・FD講演会を実施した。 ・Webシラバス、ルーブリックの有効活用および、アクティブラーニング、遠隔授業、ICT教育、BYOD実施などの教育実践に関して、教員への情報提供と環境整備について、創造教育開発センター会議にて検討した。 ・学際領域カリキュラムの見直しについて、創造教育開発センター会議にて検討した。 ・「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しについて検討した。 ・創造教育開発センターとしての学習支援の関わり方について検討したが、今後も継続的に検討が必要となった。 ・PROGテストの学生向け解説会と教員向け解説会を実施した。また、二つの学年で継続的に実施することにより、学生に特性を理解させる共に、キャリア支援に繋げる方法については、創造教育会センター会議にて議論しており、運用方法について検討した。 ・教学アセスメント実施方針に示された創造教育開発センターに関わる各種データの検証方法については次年度以降も検討することとなった。
② ・(1)自己点検・評価実施計画を策定。(2)学校教育法第109条第1項に基づく基準・点検項目の設定と反映。(3)自己点検・評価実施計画によるPDCAサイクルの確立の３点の状況確認を行う。	② ・1）自己点検・評価実施計画に基づいたR3年度報告書を7月にHP上に掲載した。2）自己点検・評価報告書において、各年度ごとの各部署におけるPDCAサイクルが実効できていることを委員会で確認した。3）学校教育法第109条第1項に基づく自己点検基準・点検項目の設定と記載形式等は継続審議とする。
③-1 ・4年生の学際科目のひとつである「プロジェクト演習」の内容を充実させる。 ・昨年度に引き続き、本科と共同して福井県協働プロジェクト「未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版PBL支援分）」の支援を受け、課題解決型学習（PBL）を推進する。特に専攻科「創造デザイン演習」では、複数年に跨るようなやや複雑な課題を地元企業から提示いただき、深化した課題解決を実践する。	③-1 ・4年生の学際科目のひとつである「プロジェクト演習」の内容を充実させるために、教員間の打ち合わせを5回実施した。さらに、「プロジェクト演習」の授業において、Teamsを活用し授業を進め、県内の企業のエンジニア10名に最終発表に出席してもらい、学生にアドバイスをしてもらい、交流の機会を得た。 ・昨年度に引き続き、本科と共同して福井県協働プロジェクト「未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版PBL支援分）」の支援を受け、課題解決型学習（PBL）を推進した。特に、専攻科「創造デザイン演習」では、複数年に跨るやや複雑な課題を地元連携企業2社から提示いただき、深化した課題解決を実践・完遂した。10月には協働企業2社を訪問し、現地で課題の説明を受けた。中間報告会及び最終報告会には連携企業から6名に来校いただき、評価・講評をいただいた。当該科目の成果を、本校主催のJointフォーラムや工学教育協会の場で発表した。
③－２ ・本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」の会員となっている地元の企業に依頼して企業現場における課題を本校のPBL課題として取り上げ、企業の担当者と連携しながら学生の教育に取り組む新しいコンテンツを開発する。 ・地域連携アカデミアの会員企業に学生のインターンシップの国内外での受け入れを依頼する。	③－２ ・専攻科インターンシップにおいて、「地域連携アカデミア」の会員となっている地元の企業を中心に企業数社に依頼して、企業現場における課題をテーマにした実践的な実習を9名の学生が取り組んだ。コロナ禍ではあるが実習は主に企業で実施し、インターンシップ報告会を10/5に行った。 ・本科4年プロジェクト演習、専攻科1年創造デザイン演習においても地域に関するテーマを課題として取り上げ、PBLを実施した。「地域連携アカデミア」会員企業3社から、企業技術者の方に技術的なアドバイス等の支援をいただいた。
③－３ ・福井県警との連携を図り、教員がセキュリティ技術のみならず社会的情勢や青少年育成の観点からもサイバーセキュリティ教育の指導力を向上させる。	③－３ ・警察学校での一般警察官へのネットワーク技術の授業を実施（3日間）した。また、近年のサイバー犯罪の傾向と、捜査の困難さについての情報交換を実施した。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
④ ・長岡技術科学大学「アドバンストコース」の推進に継続的に協力するとともに、有機的な連携を推進していく。	④ ・アドバンストコースの登録学生は0名である。 ・協働科目による授業については、（前期）英語特講：13名、日本語表現演習：30名、実施日：4月15日，4月22日，5月6日，7月22日（英語特講のみ受講）の4回、（後期）　数学特講：20名、実施日：10月7日，10月14日，10月28日，11月4日，11月11日，11月18日、12月2日の7回
（5）学生支援・生活支援等 ① ・学内の関係各所と協働して学生支援にあたる。 ・外部カウンセラーの在校時間を前年度並みに維持する。 ・過年度より行っている外部機関との連携を推進する。 ・学外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ教職員を積極的に派遣するとともに、学内においては、教職員向け講演会を企画するなどして、学生指導支援方法に関する情報共有を図り、教職員の資質向上に努める。	（5）学生支援・生活支援等 ① ・本相談室では、ア．学生のメンタルヘルス、イ．第二学生相談室、ウ．キャンパス自立支援室において各関連部署と協働し学生支援にあたった。アについては、本人や関係教職員からの申し出によるカウンセリングだけでなく、カウンセラーによるメンタルヘルス講習会、エゴグラムテスト、Formsによる高専生活アンケートを行うことにより、ケアが必要な学生を見つけ、カウンセリングを早期に行うなど積極的な対策を取った。その結果、本年度は416名の学生および教員が学生相談室を利用した。イについては、困りごとのある学生1名に対し、特定の教員が定期的にメンタルケアや修学上の問題について支援を行った。ウについては、障害のある学生6名に対し、保護者、関係教職員を交え面談し、修学上、試験時における合理的配慮を行った。 ・当初の予定通り、本年度2名の学外カウンセラーがそれぞれ週2日ずつ来校し、学生の心のケアを行った。有事の際には2名体制でカウンセリングを行ったり、関係教職員、看護師を含めた「ケア会議」を主催した。 ・外部機関との連携については、県の特別支援教育センターと連携した学生支援を行っている。また、精神科医と提携し、2か月に1回、希望する学生および教職員と面談をしていただくことにより、学生のメンタルヘルス面の対応について一層の充実を図った。 ・学外におけるメンタルヘルス関係の研修会については、進捗で記載した通り。
② ・奨学金制度ついて、学校全体の情報共有を図るとともに、学生や保護者に向けた適切な情報公開に努め、より円滑に運用をする。 ・各種奨学金制度等の学生支援に係る情報を、ホームページや掲示板などのメディアを活用して、学生により効率的に提供する。	② ・日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板（電子掲示板を含む）で周知するとともに担任を経由して学生に情報を提供した。 ・日本学生支援機構奨学生は前期給付奨学生が52名、後期給付奨学生が47名、貸与奨学生は、他貸与奨学生が12名、その他の奨学生は52名であった。また、入学料徴収猶予者は1名、入学料免除許可者はなし、前期授業料免除対象者は、全額免除が21名、2/3免除が19名、半額免除が1名、1/3免除が延べ12名であった。後期授業料免除対象者は、全額免除が延べ22名、2/3免除が延べ14名、半額免除が延べ1名、1/3免除が延べ10名であった。 ・卓越した学生については後期分の全額免除は2名であった。
③ ・低学年から高学年まで、学年毎に先輩講座（卒業生による進路決定までの道筋を例示）などのキャリアガイダンスを実施し、学年進行に応じたキャリア形成を行う。 ・求人やインターンシップ、進学に関する情報はキャリア支援室にて統括する。就職、進学の主な相談先である本科学級担任、専攻科専攻主任間、さらにキャリア支援室の連携を図るため、キャリア支援委員会、各学年会会議などを活用する。 ・キャリア教育セミナー（合同企業説明会）、専攻科・大学・大学院合同説明会を開催する。その際、卒業生に登壇を依頼する。 ・本科4年生、専攻科1年生向けにインターンシップ事前講座、就職対策講座を実施する。 ・女子学生向けのキャリア形成講習会を実施する。 ・卒業生による先輩講座や、在校生による先輩フォーラムを実施のため、本校同窓会（進和会）との連携の体勢を整備する。 ・高専キャリアサポートシステム「学内進路支援サイト」に全国高専に対する就職、進学の情報、さらに校内ネットワークの「進路情報フォルダ」内に本校向け求人票や帰校届などの情報が提供されていることを周知し、利用を促す。特に「進路情報フォルダ」の内容はキャリア支援室で随時更新を行う。	③ ・1年生：5月に教務主事と共同でキャリアガイダンス（本校における進路決定までのキャリア支援等について）を行なった。 2年生：6月にキャリアガイダンス（先輩講座）を実施した。講師は本校同窓会（進和会）に推薦していただいた。また、12月には先輩フォーラムとして、学科毎に5年生と専攻科生に進路決定までの体験談を伝える講座を実施した。 4年生、専攻科1年生：7月にインターンシップ事前講座を実施した。 本科3年生以上：8月に進学希望者向け説明会を実施した。 ・求人やインターンシップ、進学に関する情報はキャリア支援室で総括している。キャリア支援委員会や各学年会を通じて、本科学級担任、専攻科専攻主任と連携して進路指導に当たった。 ・専攻科・大学・大学院合同説明会を10月に実施した。また、キャリア教育セミナーを12月に対面とオンラインで実施した。 ・4年生、専攻科1年生：7月にインターンシップ事前講座を実施し、また、夏季休暇中にほどんどの学生が研修を行うことができた。2月に就職対策講座を実施した。 ・本科3、4年生、専攻科1年生の女子学生を対象として、7月にキャリア形成講習会（メーク講座）を実施した。 ・高専キャリアサポートシステム「学内進路支援サイト」、校内ネットワークの「進路情報フォルダ」が順調に利用されている。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
1．2 社会連携に関する事項 ① ・企業等との共同研究の成果などについて、本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」をはじめ、本校ホームページや外部メディアなどに積極的に発信する。 ・テクノセンターのホームページを見直し、より広く地域社会に発信する。 ・第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、研究者情報や研究設備などについて情報共有を進める。	1．2 社会連携に関する事項 ① ・企業等との共同研究の成果などについて、本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」にて12/14に発信を行った、また、本校ホームページ、ふくいオープンイノベーション推進機構（FOIP）通信、ふくい産業支援センターオープンイノベーション推進部（JAGI通信）等を通じて外部メディアなどに積極的に発信した。コロナ禍であるが、本校主催の事業については例年通り実施し、積極的にPRを行った。 ・テクノセンターのホームページを見直し、わかりやすく構成、表現を変更した。また本校ホームページTOPに産官学連携のタブを新設し、外部から産官学連携情報に素早くアクセスできるように改善を行った。 ・第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、研究者情報や研究設備などについて情報共有を進め、9/30に実施されたWeb上の会議（第3ブロック）、2/24に開催された第3ブロック対面の会議および専攻科研究フォーラムに出席した。
② ・地元の企業との共同研究の掘り起こしのために、本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」を活用する。 ・毎年12月に行っている本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」においてその成果の一部を積極的に学外発信する。 ・越前市・鯖江市が催す産業フェアにおいて、本校の活動を広く発信する。	② ・12/14に開催したJOINTフォーラムにおいて本校で実施されている共同研究事例、地域連携事例の発表を行った。また、教職員の研究シーズ、企業紹介ポスター、専攻科1年「創造デザイン演習」成果報告についても発表し、「地域連携アカデミア」との共同研究の掘り起こしに努めた。今年度もリサーチアドミニストレーター（RA）を産学連携担当、知的財産担当、研究推進担当の3名体制とし、2ヶ月に一度、定期的にRAオフィス会議を開催して情報共有と意見交換を行い、共同研究の受入れ促進を鋭意図り、3月にテクノセンター運営委員会にて年次報告を行った。 ・今年度は越前市の越前モノづくりフェスタ2022が9/11、12に開催され、サイエンスクラブ、放送・メディア研究会がそれぞれ出店し、本校の活動を広く発信した。 ・10/20、21に開催された北陸技術交流テクノフェアにて、専攻科生の研究シーズを25件発表し、本校活動の広報に努めた。
③－1 ・報道関係者との懇談の機会を設けるなど、報道関係者との良好な関係構築に取り組む。 ・地域コミュミティーFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続ける。また、地方雑誌の紙面等を通じて継続的に情報を提供していく。 ・イベントやニュースを、高専として窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達する。 ・SNSを活用した情報発信を進めるとともに、動画サイトを活用した広報活動を行うために必要な規則の整備などを検討する。	③－1 ・報道関係者との懇談の機会を設けるなど、報道関係者との良好な関係構築に継続的に取り組んでいる。 ・地域コミュミティーFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを継続している。また、地方雑誌の紙面等を通じて継続的に情報を発信した。 ・イベントやニュースを、高専として窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達した。 ・SNSを活用した情報発信を進めるとともに、YouTubeなど動画サイトを活用し活動を公開した。
③－2 ・本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を年末に開催し、地域連携の取り組みや地元企業との共同研究成果の一部を積極的に学外発信する。 ・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて社会に発信する。	③－2 ・本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を12/14に開催し、地域連携の取り組みや地元企業との共同研究成果の一部を積極的に学外発信する予定である。また特別講演にて福井大学の産学官連携推進に関する取り組みを紹介し、学内外に周知した。
1．3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・従来の国際連携や留学生等の受け入れを発展させる形で、校長のリーダーシップの下、支援・協力を進める。	1．3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・新型コロナウイルス感染症の影響で対応が困難であったが、引き続き従来の国際連携や留学生等の受け入れを発展させる形で、校長のリーダーシップの下、支援・協力を進める。
①-2 ・モンゴル高専との連携・支援策を模索する。	①-2 ・新型コロナウイルス感染症の影響で対応が困難であったが、引き続き、モンゴル高専との連携・支援策を模索する。
①-3 ・タイ高専との連携・支援を積極的に模索する。	①-3 ・新型コロナウイルス感染症の影響で対応が困難であったが、引き続き、タイ高専との連携・支援を積極的に模索する。
①-4 ・ベトナム高専との連携・支援策を模索する。	①-4 ・新型コロナウイルス感染症の影響で対応が困難であったが、引き続き、ベトナム高専との連携・支援策を模索する。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
①-5 ・国際寮の設置に向けて、本校の国際化の取組を具体化する。	①-5 ・混住型の国際寮が設置され、大規模な竣工披露式を行い広報に務めた。引き続き本校の国際化の取組について具体的な検討を行う。
② ・高専機構本部の国際化への取組に積極的に参加する。 ・ISATE2022への教員の積極的な参加を働きかける。	② ・高専機構本部の国際化への取組に積極的に参加するよう奨励した。 ・ISATE2022に本校より2名の教員が参加しそれぞれ研究発表を行った。
③-1 ・本校の国際化を推し進めるために、高専機構本部の事業に参加する体制を整える。 ・海外の教育機関との交流を推進する。 ・様々なコミュニケーションツールを利用した各種海外研修プログラムの充実を図る。	③-1 ・本校の国際化を推し進めるために、高専機構本部の事業に参加する体制を整えている。 ・本校英語版ホームページを最新情報に対応アップデート済み。併せて内容の精査・充実も図った。また、9月に行われた日本・マレーシア若者リーダー交流in福井に5年機械工学科の学生3名がマレーシアにて研修に参加した。
③-2 ・TOEICや英検へのチャレンジを支援すると共に、海外研修の機会を提供する。 ・混合型学生寮等を積極的に活用し、イングリッシュカフェ（英語科と共同開催）や報告会などを実施する。	③-2 ・今年度新設された学生寮（国際寮）の竣工披露式にて留学生の発表会が実施された。【再掲】
③-3 ・トビタテ！留学JAPANへの学生の応募を促す。【再掲】 ・ISTS2022への学生の応募を促す。【再掲】	③-3 ・トビタテ高校生コースへ2年生1名が応募し、採択を受けた。【再掲】
④-1 外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。 ・国際的な広報活動として、本校ホームページの英語版の作成を進める。 ・入国出来ない外国人留学生に対してオンライン授業を展開する。	④-1 外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。 ・国際的な広報活動として、本校ホームページの英語版の作成を進めた。 ・4月当初から5月10日頃まで、渡日できないマレーシアの留学生に対してオンライン授業を行った。
④-2 ・協力できるように学内の調整を図っていく。	④-2 ・本件に対して協力できるよう学内の調整を慎重に図っている。
⑤ ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行う。	⑤ ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行っている。
2．業務運営の効率化に関する事項 2．1　一般管理費等の効率化 ・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。	2．業務運営の効率化に関する事項 2．1　一般管理費等の効率化 ・「令和4年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な経費配分として59件12,078千円を配分した。
2．3　契約の適正化 ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性の確保を図る。 ・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。	2．3　契約の適正化 ・一般競争契約は、物品7件及び役務5件を実施し、仕様策定等により透明性や競争性の向上を図った。 ・10月からの物価高騰を見込み、使用予定の消耗品について値上げ前に発注を行いコスト削減を図った。 ・資産登録について運用マニュアルの見直しを行い、業務の改善化を図った。 ・冬の省エネ対策として、「冬の省エネ推進マニュアル」のチラシを作成し、全教職員に周知し、担任の教員には教室への掲示を依頼した。 ・廃棄物の運用について、料金が新たに発生する廃棄物倉庫への廃棄は減らし、年間契約であるゴミステーションへの廃棄を促すよう分別方法について再確認する学内通知を行い協力を求めた。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
3．予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画 　3．1　戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。【再掲】	3．予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画 　3．1　戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・「令和4年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な経費配分として59件12,078千円を配分した。
3．2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・研究環境の実態を調査して研究をより推進するための改善策を検討する。 ・外部資金獲得を増加させるために申請を支援する取り組み（公募情報の案内、申請書の査読、共同研究の斡旋）を行う。 ・研究力を高めるために機構本部のプログラムを活用する。 ・インターネットを利用した研究成果の情報発信を促進する。 ・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数の増加に引き続き努力し、寄附金のさらなる獲得につなげる。 ・3名の専門分野の異なるリサーチアドミニストレーターとの連携を深め、教職員の保有する教育研究シーズの把握、活用し共同研究等を推進するとともに、公募型の競争的資金に挑戦する。 ・寄付金の増加策を検討する。	3．2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・各科教室の研究環境の実態を調査して、研究をより推進するための改善策を2点に絞って検討した結果、令和5年度より研究推進経費（研究発表補助経費、論文投稿補助経費、連携研究推進経費）の制度を新設し、研究者交流会を開催する案を作成した。 ・外部資金獲得を増加させる取り組みとして、科研費講習会の開催、申請書の査読、メールによる公募情報の案内、高専機構産学連携活動ポータルサイトの紹介を行った。 ・研究力を高めるための機構本部のプログラムを活用し、KOSEN EXPOで1件、高専国際研究シンポジウムで2件、専攻科研究フォーラムで6件、学生による研究成果の発表を行った。 ・インターネットを利用した研究成果の情報発信を促進するため、researchmapの更新について科研費講習会や教員会議で呼びかけた。 ・令和5年度科学研究費補助金は基盤研究Bが1件、基盤研究Cが1件、若手研究が2件、奨励研究が4件の計8件が採択された。申請数は例年と比較して減少したが、採択額は昨年度を上回り、採択率は機構本部の目標値である17%を上回った。 ・機構本部等からもたらされる外部資金の情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行っている。また、リサーチアドミニストレーター（産学連携担当）が学内教職員のシーズと展開について調査を実施し、リサーチアドミニストレーター（研究推進担当）が関係する教職員へ個別に連絡を取り、申請に向けた取り組みを行っている。共同研究掘り起こしのため、RA（産学連携担当）が9月にアカデミア会員企業訪問を10社実施し、得られた技術課題について本校教職員との橋渡しを行っている。 ・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数が増加し、110社となった。また、将来的な企業からの寄附金の獲得、本校教育への支援を目指して、キャリア支援室とも連携して関係強化を図っている。 ・卒業生や一般の方からの寄付金を受け付けやすくするため、これまでの寄附制度の見直しを行い、新たな規則を制定した。これに合わせて、本校のホームページの改良を検討している。
7．剰余金の使途 ・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。	7．剰余金の使途 ・決算時点で剰余金はない。
8．その他主務省令で定める業務運営に関する事項 　8．1　施設及び設備に関する計画 ①－1 ・「 国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」（令和3年3月決定予定）及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（個別施設計画）2018」（平成31年3月決定）に基づき、福井高専における高度化、国際化への対応に必要な施設の改修や老朽施設の改修について、計画的に予算要求を行う。	8．その他主務省令で定める業務運営に関する事項 　8．1　施設及び設備に関する計画 ①－1 ・令和5年度概算要求事業の評価結果について、全て高評価であったが、予算示達が無かったので、引き続き令和6年度概算要求事業として要求することとする。
①－2 ・建物外壁及び工作物の非構造部材等で落下等の危険がある場合又は危険が予測される場合は、立入禁止等の処置を行い、早期に補修を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保する。	①－2 ・令和5年1月に本館2階渡り廊下の天井より漏水が発生したが、すぐに補修工事を実施し、対策を行った。引き続き、点検等を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保に努める。
③ ・科学技術分野への男女共同参加を推進するため、女子学生・女性教職員が使用するトイレにおいて和式の箇所を計画的に洋式に改修し、修学・就業上の環境整備を推進する。	③ ・令和4年度は、女子学生・女性教職員の修学・就業上における施設環境整備の一環としての本校本館の女性トイレの壁の伸長作業（盗撮対策）を行った。 ・当初は図書館2階の女子便所の和式トイレ（1か所）を洋式トイレに改修工事の予定であったが、女子便所内のトイレブースの増設改修を優先的に実施した。【再掲】

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
④ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取得を促す。また、女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。【再掲】	④ ・当初は図書館2階の女子便所の和式トイレ（1か所）を洋式トイレに改修工事の予定であったが、女子便所内のトイレブースの増設改修を優先的に実施した。【再掲】
８．２ 人事に関する計画 （1）方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ①　課外活動、寮務等の見直しとして、以下のような外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。 ・課外活動指導員の制度と従来の外部コーチの制度を併用し、指導教員B制度とともに活用することで、指導教員の負担を効率的に軽減させ、部活動の円滑な運用を支援する。 ・退職や再雇用となった元教員の日直従事制度（希望制）により、現職教員の日直業務従事回数の軽減が継続実施されている。この制度を本年度も継続する。 ・昨年度策定し試行した宿日直業務の外部委託制度試行を本年度も継続する。 ・働き方改革の有力な方策として、女性教員の宿直勤務各種環境整備と希望制による試行を目指す。	８．２ 人事に関する計画 （1）方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ①　課外活動、寮務等の見直しとして、以下のような外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。 ・部活動、同好会活動の実態調査を行い、部活動の精査（整理）を行うとともに、顧問の再配置などを行うことで、教員の負担軽減を推進している。 ・課外活動指導員は1名、外部コーチは9名である。制度を活用して指導教員の負担を効率的に軽減させ、部活動の円滑な運用を支援している。 ・計画通り、4名の日直業務従事者を外部（本校元教職員）委託制度で任用し、本年度末までに合計23日の業務依頼を行ない、ほぼ予定通りに実施した。 ・本年度9月に運用開始した混住型学生寮（国際寮）内に、多目的使用（例えば、女性専用静養室及び宿日直室等）可能な居室を計画通り設置した。この活用のために、多様な宿日直業務の在り方（例、年齢や各種事情による業務配慮や女性教員の宿日直業務従事等）の慎重な検討に着手し、女性教員宿直環境調査をほぼ予定通り実施した。
② ・校長裁量枠を設定し活用することで，戦略的かつ弾力的な教員を配置を行う。 ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。	② ・校長裁量枠活用により、年度末の退職者が把握されている学科について、令和5年4月1日付け採用を目的とする公募を実施した。その結果、講師1、助教3名の若手教員を採用することができた。一部専門学科については、継続して公募を実施している。 ・高専・両技科大間の交流制度について学内で周知を徹底したが、令和4年度は希望者がいなかった。
③ ・特別流用を利用した校長裁量枠を活用することで、学校の運営戦略に即した弾力的な教員を配置を行う。 ・標準人員枠に対し、特例流用を活用することにより若手教員を確保し、人材の長期育成を図る。	③ ・校長裁量枠を活用により、退職者の生じる学科の早期人員補充を実施し、退職教員の在任中に新任教員が業務を直接引き継ぎできる体制を以前から保持している。 ・特例流用を積極的に活用することにより、若手教員が主となる助教の枠を増やし、人材の長期的視野での育成を可能なものとしている。特例流用、通常流用の活用方法については、毎年度、執行部及び委員会等で何が最適であるか検討の場を設けて活用している。
④－１ ・専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。【再掲】	④―１ ・専門科目担当教員にかかる教員公募要領では「博士の学位を有する者」という項目を掲げている（着任日までに取得できなかった場合は、任期付となることを併記）。
④－２ ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の利用を働きかける。【再掲】	④－２ ・昨年度に引き続き学内の教員人事に関する委員会でクロスアポイントメント制度の説明を実施するとともに、各学科、一般科目教室に対し希望の有無の確認を実施したが、令和4年度中及び令和5年度初めにおける制度活用の希望はなかった。クロスアポイントメント制度の活用は教員人員枠に関係することから、人員枠等を十分に確認しながら、令和5年度も制度活用の働きかけを継続し、実際の導入につなげたい。【再掲】
④－３ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取得を促す。また、女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。【再掲】	④－３ ・高専機構内の交流として、同居支援プログラムにより令和5年度に他高専から教授1名を受け入れることが確定した。【再掲】 ・当初は図書館2階の女子便所の和式トイレ（1か所）を洋式トイレに改修工事の予定であったが、女子便所内のトイレブースの増設改修を優先的に実施した。【再掲】
④－４ ・外国語の授業では、ネイティブな教員を配置するように努める。	④－４ ・外国語の授業においてネイティブの教員を配置している。【再掲】

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
④－５ ・機構本部から送られてくる、シンポジウム、研修会、ニューズレターを学内に配付等して、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を継続的に図る。	④－５ ・機構本部から送られてくる、シンポジウム、研修会、ニューズレターを学内に配付等し、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を継続的に図った。
⑤ ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。また、新型コロナウイルス感染症対策に留意した上で、教員及び事務・技術職員を対象とした実地、オンライン等各種の研修会に参加させ、一層の資質向上を図る。	⑤ ・高専・両技科大の教員交流制度について、令和4年度において利用を希望する者はいなかった。 ・令和4年度は各種研修会について、実地で開催されるものが多く、積極的に教職員を参加させ知識修得及び資質向上を図った。 ＜教育職員＞ ・令和4年度高等専門学校新任教員研修会に教員2名が参加した（令和4年5月以降オンライン及び集合計式で実施）。 ・令和4年度高等専門学校教員研修（管理職研修）に教員１名が参加した（令和4年9月に東京で開催）。 ・令和4年度高等専門学校中堅職員研修に教員2名の参加が予定されている（令和4年12月以降オンライン及び集合形式で実施）。 ・令和4年度女性管理職研修に教員2名が参加した（令和5年3月にオンラインで実施）。 ＜事務職員・技術職員＞ ・令和4年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修会に技術職員1名が参加した（令和4年8月24日～26日　豊田高専オンライン）。 ・令和4年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修に総務課長1名が参加した（令和4年6月9日　金沢大学）。 ・令和4年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に事務職員1名、技術職員2名が参加した（令和4年11月2日　富山大学）。 ・令和4年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員1名が参加した（令和4年11月21日　北陸先端科学技術大学院大学）。 ・令和4年度東海・北陸・近畿地区国立高専職務勉強会（人事系）に事務職員2名が参加した（令和5年1月20日）。 ・令和4年度国立高専機構人事担当者説明会に事務職員1名が参加した（令和5年1月23日～25日）。 ＜全教職員対象＞ ・令和4年度ハラスメント防止に関する研修会に教員71名、職員60名が参加した（令和4年11月16日～12月16日にオンラインで実施）。 ・本校事務情報化推進室の主導により、全教職員を対象とするRPAに関する業務効率化の研修会を年間を通じて実施した。
（2）人員に関する指標 ・常勤教職員について、各種研修などを利用し、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。 ・昨年学内で勉強会や講習等を開催してRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を推進したが、今年度も継続して事務の効率化に努める。	（2）人員に関する指標 ・令和4年度は各種研修会について、実地で開催されるものが多く、積極的に教職員を参加させ知識修得及び資質向上を図った。 ＜教育職員＞ ・令和4年度高等専門学校新任教員研修会に教員2名が参加した（令和4年5月以降オンライン及び集合計式で実施）。 ・令和4年度高等専門学校教員研修（管理職研修）に教員１名が参加した（令和4年9月に東京で開催）。 ・令和4年度高等専門学校中堅職員研修に教員2名の参加が予定されている（令和4年12月以降オンライン及び集合形式で実施）。 ・令和4年度女性管理職研修に教員2名が参加した（令和5年3月にオンラインで実施）。 ＜事務職員・技術職員＞ ・令和4年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修会に技術職員1名が参加した（令和4年8月24日～26日　豊田高専オンライン）。 ・令和4年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修に総務課長1名が参加した（令和4年6月9日　金沢大学）。 ・令和4年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に事務職員1名、技術職員2名が参加した（令和4年11月2日　富山大学）。 ・令和4年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員1名が参加した（令和4年11月21日　北陸先端科学技術大学院大学）。 ・令和4年度東海・北陸・近畿地区国立高専職務勉強会（人事系）に事務職員2名が参加した（令和5年1月20日）。 ・令和4年度国立高専機構人事担当者説明会に事務職員1名が参加した（令和5年1月23日～25日）。 ＜全教職員対象＞ ・令和4年度ハラスメント防止に関する研修会に教員71名、職員60名が参加した（令和4年11月16日～12月16日にオンラインで実施）。 ・本校事務情報化推進室の主導により、全教職員を対象とするRPAに関する業務効率化の研修会を年間を通じて実施した。 ＜人員配置等＞ ・人員配置について、各部署において業務量の把握、効率化を図りつつ、研修等での職務能力向上を加味し適正なものとなるよう努めている。 ・業務効率化の一環として導入を推進しているRPAについて、今年度も学内各部署での活用の取組みを継続した。令和5年度も置き換え可能な業務についてRPA導入を進めていく予定となっている。

令和4年度　年度計画 （高専名：　福井工業高等専門学校　）	令和4年度年度計画　実績報告 （高専名：　福井工業高等専門学校　）
8．3情報セキュリティについて ・「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人の情報セキュリティポリシーを踏まえて、情報セキュリティに関する監査などの結果に基づき改定した学内情報セキュリティに基づきPDCAを定着させる。 ・学内のパソコンやネットワーク機器のネットワークへの接続状況や、OSの更新やファームウェアの更新などの状況を情報共有する仕組みを徹底させ，不審なソフトウェアの侵入などのネットワークを経由した攻撃への備えを継続維持する。 ・全教職員の情報セキュリティに関する意識向上を図るために、情報セキュリティ教育や標的型攻撃メール対応訓練等への参加を定着させる。 ・高専機構のCSIRTなどの発信するインシデントの予兆やインシデント対応の情報を、タイムリーに学内で情報共有し、インシデント発生時の初期対応である「すぐやる3箇条」の徹底を継続させる。	8．3情報セキュリティについて ・本部主導の標的型メール演習に加え、福井高専独自の標的型メールによるウィルス感染演習を全教職員に対して実施した。 ・本部主導のセキュリティ推進規定、セキュリティ管理規定の改正を完了した。 ・共通機器のファームウェアの迅速なアップデートおよびインシデント情報共有は継続して実施している。 ・11月の監査を完了した。
8．4 内部統制の充実・強化 ①－1 ・校長のリーダーシップのもと、学校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的な会議開催を行う。	8．4 内部統制の充実・強化 ①－1 ・今年度も新型コロナウイルス感染症に対する本校の方針を協議するため、危機対策本部会議を4月から3月までの間に8回開催して、学校としての意思決定を行い、教職員や学生に方針を示した。
①－2 ・学校運営会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図ると共に、学校としての課題や方針の共有化を図る。	①－2 ・定期的に学校運営会議を開催（4月から3月までの間に17回）し、学校としての課題や方針の共有化を図った。また、教員会議を開催（4月から3月までの間に14回）して全教員に対して意識共有の場を設け、有効に活用した。
①－3 ・本校の学校運営及び教育活動等の特徴を活かし、魅力の創出を諮ると共に、各種会議を通じてその情報の共有化を図る。	①－3 ・2年目となる福井高専ジュニアドクター育成塾（クラフテックラボ）は全校を上げての取組であり、学校運営会議はもちろん学内の各種会議を通じて情報共有化を図った。
②－1 ・学校として、法人全体の共通課題に対応する。	②－1 ・法人全体に係る共通課題については、学校運営会議等において議論され、学校としてのマネジメント対応に努めた。会議形式においても、教員会議を基本ウエブ会議とし、環境整備としてコロナ対策を図った。
②－2 ・コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を図る。	②－2 ・コンプライアンス・マニュアルを常時共有ファイルで閲覧できるようにし、教職員個々人のコンプライアンスの向上に努めている。また、毎年行うコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して意識向上を図った。
②－3 ・法人本部と学校との十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。	②－3 ・事件関連の事例など、本部との速やかな情報共有を行いながら、対応にあたった。
③ ・内部監査等で発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。 ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況を維持する。	③ ・11月に受検した情報セキュリティ監査で発見した課題については、関係者で情報共有を実施している。R5年5月31日までに対応内容を報告する。 ・令和5年1月に総務課職員による学内定期監査を実施した。内部監査で発見した課題については、関係者で情報を共有し、解決を図った。 ・令和4年度高専相互会計内部監査について、令和4年12月8日に石川工業高等専門学校の監査を行い、あわせて両校との情報共有を行い、会計事務関係等の情報交換を行った。
④ ・教職員のコンプライアンス意識涵養のために講習会や注意喚起を行う。 ・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成26年2月18日改正）」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。	④ ・新任教職員オリエンテーション（令和4年4月1日）開催時に、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・教員会議（令和4年4月20日）において、公的資金の適正な管理及び執行について、総務課長から周知を行った。 ・全教職員を対象としたコンプライアンス講習会として、機構本部から配信されている「公的研究費の不正使用の再発防止」に向けた内容の録画視聴を行い（期間：令和4年8月25日～9月28日）、併せて「理解度チェックのためのアンケート」を実施した。
⑤ ・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて本校の年度計画を定め、本校の管理運営、教育研究を実施する。また、副校長、主事、各種委員会委員長は、年度当初の教員会議にて年度計画等の所信表明を行い、本年度の活動方針を全教員で共有する。	⑤ ・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて本校の年度計画を定め、本校の管理運営、教育研究を実施している。また、副校長、校長補佐、各種委員会委員長は、年度当初の教員会議にて年度計画等の所信表明を行い、本年度の活動方針を全教員で共有している。